

令和5年度第2回八街市総合教育会議議事録

期 日 令和6年3月21日（木）
開 会 午前10時28分
閉 会 午前11時32分
場 所 八街市教育センター

出席者 (構成員)

市長	北 村 新 司
教育委員会教育長	浅 尾 智 康
教育委員会教育長職務代理者	山 田 良 子
教育委員会委員	吉 田 昌 弘
教育委員会委員	橋 爪 通 代
教育委員会委員	近 藤 博

(出席職員)

副市長	大 木 俊 行
総務部長	田 中 和 彦
総務部総務課長	秋 葉 忠 久
教育委員会教育部教育総務課長	富 谷 和 恵
教育委員会学校教育課長	一 瀬 祐 彦
教育委員会教育センター所長	羽 賀 誠
教育委員会学校教育課指導主事	程 田 晃 博
教育委員会学校教育課指導主事	篠 原 英 治

(事務局職員)

教育委員会教育部教育総務課副主幹	幸 野 慎 一
------------------	---------

議 題 (1) ICT教育の現状と課題について
(2) その他

【会議概要】

教育総務課長

ただいまより令和5年度第2回八街市総合教育会議を開催いたします。

はじめに北村市長よりご挨拶をお願いいたします。

北村市長

令和5年度第2回八街市総合教育会議を開催いたしましたところ、浅尾教育長をはじめ、教育委員の皆さまにおかれましては、出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より八街市の教育行政並びに社会教育の振興等にご多大なご尽力を賜っておりますことに改めてお礼申し上げます。

前回の会議におきましては、移動図書館車の現状、スポーツプラザの利用状況につきまして、委員の皆さまから大変貴重なご意見をいただきました。

本会議は教育委員会との意見交換をさせていただく大変貴重な場でありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

なお、本日の会議につきましては、「ICT教育の現状と課題について」を議題としておりますので、よろしくお願ひします。

教育総務課長

ありがとうございました。

続きまして、浅尾教育長よりご挨拶をお願いいたします。

浅尾教育長

本日は第2回目の総合教育会議ということで、北村市長をはじめ、市長部局の幹部の皆さまに、この教育センターまで足をお運びいただきましてありがとうございます。

また、市長部局の皆さまには、日頃から教育委員会の取り組みに対しまして、特段のご理解、ご支援をいただいておりますことに改めて感謝を申し上げます。

本市では児童生徒への1人1台パソコンをいち早く導入していただき、さらには特別教室を含む、すべての教室に電子黒板を配備していただくなど、ICTを活用した教育活動を行う上で、大変恵まれた環境をご用意いただいております。

文部科学省のGIGAスクール構想のもとで、このICTの機器の導入は全国的に進んでおりますけれども、ほとんどの学校では、まだ画像を映し出したり、市販のソフトを使って練習問題を解くなど、機能を十分に生かしている状況には、至っていないように考えております。

これに対して本市では、教育センターを中心にクロームブックなどを活用して、子どもたちが自分の考えを表現し、それをクラスの中で共有しながら考え、理解を深めるなど、さまざまな取り組みを実施して、教職員が正にこの機能を十分に

活用できるように取り組んでいるところでございます。

北総教育事務所の視察や、公開授業研究会の際にも、各学校の授業に対して非常に高い評価をいただいております、近隣市町はもとより、県内でも進んだ取り組みができていないのではないかと自負しているところでございます。

本日は、本市のICTを活用した学習活動、教育活動への様子につきまして、その一端をご覧いただきご意見等を伺えれば、ありがたく存じます。

また、昨年8月に開催した第1回総合教育会議では、「移動図書館車の現状」と「スポーツプラザの利用状況」という2つのテーマでご意見をいただいたところでございます。

移動図書館車につきましては、来年度の当初予算において、更新に向けた視察調査のための予算措置など、新たな移動図書館車の活用に向けた取り組みをご支援いただきまして大変ありがとうございます。

スポーツプラザにつきましても、環境整備をさらに進めて、市民の皆さまの健康や、体力の維持向上に資するための環境を整えていただいているということをご大変ありがたく思っております。

空調設備や電子決済についても話題となりましたが、これにつきましても他市町の状況などを踏まえながら、しっかり取り組んでいきたいと考えているところでございます。

教育委員会といたしましては、教育施策のさらなる充実発展のために、市長部局の皆さまのご協力ご支援をいただきながら取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

教育総務課長

ありがとうございます。それでは早速議題に入ります。八街市総合教育会議運営要綱第3条により、会議の議事進行は市長が行うと規定されておりますので、進行を市長にお願いいたします。

北村市長

それでは八街市総合教育会議運営要綱第3条の規定によりまして、進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたしますと思います。

議事に入ります(1)「ICT教育の現状と課題について」を議題とします。事務局の説明を求めます。

教育センター所長

本年度4月から学校教育課主幹兼教育センター所長を務めております羽賀でございます。本日は、指導主事の程田と篠原も同席させていただきます。よろしくお願いいたします。

早速説明に移ります。

教育センターの業務を一言で表現すると、「学力向上に資するための教職員の資質能力の向上」です。その一環であり、現在、業務の大きな中心となっているのが、ICTの活用と、校務DX、デジタルトランスフォーメーションの推進です。ICTを活用することで授業を改善し、学力向上につなげること、そして校務DXを推進することで教職員の働き方改革を推進することを目指しております。

まずは授業改善についてです。

令和3年度から本格的に導入したクロームブックにより、授業は大きく変わりました。一枚の紙を配るにも、プリントアウトし、大きさを整え、配付するといった手間がなく、ボタン一つで配付できます。知りたいことは、すぐにインターネットなどで調べることができます。他にも、ノートや黒板などの学習の足跡を撮影して保存する、友達の考えを共有し話し合う、学習の際に以前の学習を振り返る、デジタルドリルで学習を進めるなどといったことが、一台のクロームブックのおかげで、便利にできるようになりました。

子どもたちの意見交換も変化しました。今までは、模造紙のように大きな紙を用意し、たくさんの付箋を貼り付けて行っていた意見交換は、クロームブックと電子黒板によって容易にできるようになりました。準備時間も大幅に減りますし、消したり直したりするのも容易なので、作業時間もかかりません。模造紙と違って保存する場所にも困りません。右側の写真は一年生の道徳の時間の資料です。一人一人が自分の意見をデータで提出しています。キーボード入力が苦手なら手書き入力もできます。

自分の意見をまとめる際にも、ノートだけの時に比べて、絵や写真なども容易に添付できます。大きさを変えることもすぐにできるので、誰でもわかりやすく見やすく、まとめることができます。

今年度はCBT、つまりコンピューターでテストを行うという検証も行いました。クロームブックでテストを行うことで、採点・分析などの業務が大幅に改善されたことから、次年度は八街市の小学校基礎学力調査の算数を、国のシステムを活用してCBT化する準備をしています。もちろん、小学校の漢字の学習をはじめ、「書く」という大事な学習をなくすわけではありません。

クロームブックは、一人一人が主体的に学習を進めるためのツールとしても有効です。こちらは、小学校の書写で活用できる教材です。子どもたちは、自分の手元にあるクロームブックで、自分のペースで何度も動画で確かめながら、学習を進めることができます。このような教材を一人一人が手元で確認できるのも、昔から「できたらいいな」と思われていたことが実現しています。

自分の成長を確かめることについても非常に有効です。そもそも、様々な作品を保管するための場所を取りません。書写の際にも、自分の作品を撮影し、自分

の目当てや反省をその場で入力しておき、次の時間には、手元にあるデータで自分の反省点を確認してから、学習に取り組むことができます。

ここで動画をご覧ください。

これは2年生の児童の家庭での音読の録画の様子です。音読カードではなく、このように録画して提出することで、教師も一人一人の状況を把握できますし、子どもたちも自分の様子を確認し、改善することができます。

次の資料は、実際に1年生が作成した夏休みの課題です。

夏休み中も、この子は、夏休み前の学習をもとに、自分で自由研究の課題を設定し、保護者と一緒に学校に来て記録を続け、クロームブックでまとめました。昔は、カメラで写真を撮りプリントアウトするという大変な作業でしたが、今は必要ありません。1年生でも、課題に関するクイズを簡単につくすることもできます。

令和4年度に導入した電子黒板のおかげで、授業のわかりやすさは格段に向上しました。これまで「こうできたらよいのに」と思ったことが実現されており、電子黒板がないと授業するのが嫌になるということを冗談交じりにいう職員もいます。なにより、今まで画用紙や模造紙で教師が膨大な時間を使っていた資料作りについて、今までよりも格段に見やすい資料を簡単に作成し、提示できます。子どもの意見を追加したり、保存したり、同じ資料を子どもたちにデータで配ったりすることも、格段に便利になりました。

デジタル指導書が活用できることも授業改善にとって大きな変化です。今までは、拡大コピーができれば良いほうで、ふつうは手書きで画用紙などに大きく写すことで、わかりやすくなるように工夫していました。ところがデジタル教科書であれば、そんな準備時間も削減できますし、動く教材も簡単に提示できます。デジタル指導書については、後ほど実際にご覧いただきます。

子どもたちの発表の際にも、今までは画用紙などに書いて黒板に貼ることが多く行われていましたが、教室の一番後ろからはどうしても見づらいのが普通でした。みんなの意見を一枚の模造紙にまとめたりすることについても同じです。それが、電子黒板によって「見づらい」「分かりづらい」ということがなくなりました。

I C T活用の推進は、夏季休業の課題にも大きく影響しました。夏休みなどに特別に購入していた「夏休みドリル」などをオンラインドリルで代わりにすることで、保護者の経済的負担も減らすことができます。画像は9月の八街北小学校の6年生の廊下です。よく行われている「絵日記」や「一行日記」に代わり、クロームブックで自分で動画を作成し、その動画を再生するためのQRコードが掲示されていました。訪れた人が読み込んで動画を見ることができるようになっていました。

オンライン会議は、もはや当たり前になってきました。インドネシアとの交流のように、「遠くて実際に交流するのが容易ではない」場合だけでなく、暑い9月や、寒い1月に体育館に集まることで健康面での不安が広がらないように、全校集会等をオンラインで実施することもめずらしくありません。

八街中学校では、教育センター職員2名が講師となり、オンラインで全校一斉のネットモラルに関する授業を行い、一方的な配信ではなく、その場で子どもたちからの意見を集めながら実施しました。

I C T活用を進める上で重要なのは、活用の最前線に立つ教員の研修の充実です。なぜなら、我々は今の子どもたちのように「デジタルネイティブ」ではないからです。

若年層の先生方は、そもそも授業の進め方、校務の進め方をベテランの先生方から学びます。半面、I C Tの活用では、ベテランの先生方と一緒に、いろいろとアイデアを出すなど、学校一丸となって教師力の向上に努めています。

職員の研修についても、オンラインを取り入れ、場所移動の時間削減や、資料の共有など、業務改善を進めております。

また、校務D X推進の要として、校務支援システムの活用を進めています。画面にある銀色のP Cが、職員用に平成30年度に導入したP Cで、校務支援システムを活用することができます。現在は、オンプレミスで職員室のみでの活用ですが、今後フルクラウド化することで更なる活用を進めます。

校務支援システムは、児童の出欠席管理、成績、名簿作成、保健管理など、小学校から中学校にかけて引継ぎが必要な情報を市内で共有しながら業務ができるシステムです。たとえば中学校への進学の際に、今まではU S Bを使ってメールで行っていた名簿情報の提供もしなくて済むようになりました。

次に今後の課題です。電子黒板も、一人一台のクロームブックも、ポイントは「使うことが目的ではない」というところです。本市では、先生方の尽力もあり、「使う」ことではなく、「使ってどんな力を身に付けるか」という意識が高くなってきています。しかし、まだ、職員の意識の差、学校ごとの取り組みの差は否めません。この当たり前の好環境を整えていただいたことで、先生方も意欲的に頑張ることができています。一方、まだ新しいツールであることは確かですので、更に活用を進め、思考力・判断力・知識などの学力向上に、いかに結びつけるかも引き続き大きな課題です。

紙を印刷し、会議資料を作ったり、教材作成も効率化が図れるようにD Xは進んでいますが、まだ過程にすぎません。一人一人の職員が子どもに向き合うための教材研究などに充てられる時間を増やすことを含めた働き方改革につなげることもいまだに課題です。G I G Aスクール3年目、まだ慣れていない職員にとっては、追加業務となっている感もまだまだあり、引き続き、教育センターとして、

これだけ整備した環境を活用し、子どもたちの力を伸ばすことができるように取り組んでまいります。

最後に、市内の学校の様子を動画にまとめましたのでご覧いただければと思います。この動画をご覧いただいたあと、実際にクロームブックや電子黒板を体験していただこうと考えております。

(資料に沿って、スライドを使いながら説明。その後、ICT教育の現状をパソコンを使って模擬体験)

北村市長

ただ今、実際に体験をさせていただくと、改めまして子どもたちを取り巻く環境の変化がわかりました。

それでは、このことを踏まえまして、委員の皆さま方のご意見を、あるいは見解を伺えたらありがたいです。よろしく申し上げます。

山田教育長職務代理者

教育委員会では毎月、各学校を訪問し、授業風景を拝見しておりますが、子どもたちがノートや鉛筆のように、クロームブックを使っている姿を見て、今の教育はここまで進んでいたのだと、ごく当然のように思っていたんです。実は今年の12月に習字の書写の県大会が成田でございまして、この日常的な授業の成果物を紹介したところ、大変反響があり、来賓として、元文科省の教科調査官の先生や、千葉大学の教授が見えていたんですが、お二方とも、これを日常の授業で行われていることに大絶賛をいただきました。全国的に見ても普段の授業でICT教育がここまで進んでいるというのは、素晴らしいことなのだと、改めて感激しました。市から教育に思いを込めて、機器の充実を図っていただいていることと、現場の先生、また指導者の先生方が前向きに努力され、活用してくださっていることに感心したところです。

吉田委員

他市町村の様子はわかりませんが、聞いている話だと本当に八街市は進んでいるということです。ただ昔は書くことで、いろいろなことを覚えたんですけど、それはどうなのかと思いましたが、今の説明を聞いてみると、パソコンで自分で書いて覚えたり、いろいろな活用の方法があって、それをまた、先生方が研修によって手に入れている。とにかくベテランの先生もいるので、なかなか難しい授業の教材研究になるのかなと思うのですが、それをうまく八街市の先生方がやっている。

それから、他の人の意見を聞くということは、授業では大切だと思うのですが、クロームブックを使ったら、それもできないのではないかと思ったら、意見の共

有や自分の考えを他の人たちに聞いてもらいながら、いろいろ考察を加えていくこともできるということで、それも素晴らしいことだし、最後に先生方が、昔は手作業で授業もいろいろと工夫しながら割り振っていたことも、公務的に支援してもらっている。それから先ほど出ましたけど、小学校から中学校への引き継ぎも、クロームブックでできるようになったということで、クロームブックを使いこなせるようになった先生方、本当に素晴らしいことであると思うし、またそれを支援していただいている市にも本当に感謝しているところでございます。これからは更に進めていければと、特に電子黒板は素晴らしいと感じているところで

橋爪委員

私の子どもの通っている中学校では、先ほどテストの話もありましたけれども、テストもクロームブックを使って行ったと聞いておりますし、台風の時の短縮日課の連絡や帰宅連絡なども、クロームブックを使って担任の先生とやり取りをしている様子が窺えて、とても便利だと感じております。

近藤委員

私もいくつかの学校でICTの活用を見せていただいたんですけど、二州小学校沖分校の2年生が、プログラミング学習を自分たちだけでどんどん進めていて驚きました。他の学校でも、それぞれ進んでいるんですが、八街市では非常にICTの活用が進んでいて素晴らしいと思いました。

それを支えているのはネットワークということで、現在、保守運用がしっかりしていただいているので、すべての学校で大きな不具合がないと聞いています。他の市町村では、そこがうまくいかないの、なかなか進まないという現象もあると聞いています。

文部科学省も、1人1台端末の活用を推進するためには、次回のクロームブックの整備の時にはネットワークの診断、いわゆるネットワークアセスメントを必ず実施するよという方向を示しています。

本市では、おかげさまで大きなトラブルが起きていないので、今後もより安定したICTの活用が推進されるように、ネットワークアセスメントを実施していただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

北村市長

私もICTの活用によりまして、子どもたちは対話的で主体的な学びができていのではないかと感じたところでござひます。

また、先生方の授業準備が容易になり、負担軽減が図れるとのことで、今後、教職員の働き方改革が進んでいくことを期待しておひます。

また、今後ICT教育をさらに推進していく上での課題、あるいは市の取り組みに期待することもありましたらお聞かせください。

山田委員

端末の更新のことがとても心配です。今の1人1台のクロームブックは令和7年度でちょうど5年が終わりますので、8年度から新しいパソコンに順次入れ替えが必要ということを知っています。

現在、八街では5年間どのような故障にも対応できる保守契約を結んでいるということで、現場も教育委員会も大変助かっています。

他市ではこのような契約がないために、「自分が使っているパソコンが故障してしまったからしばらく使えない」という状況になり大変困っているそうです。

ぜひ、令和8年度からの更新の際にも、同じような保守契約を結んでいただき、子ども達の学びを止めない体制を続けていただきたいと思います。

吉田委員

私は国際交流協会に携わっているのですが、学校の先生方から少し困っていると聞いているのは、いろいろな国の子どもたちが今多くなっており、スリランカ、それからモンゴル、アラブの方からもたくさん来ているとのこと。子どもたちは結構日本語を覚えるのは早いんですが、親の対応で困っており、親は自分の母国語しか話せないの、先生方が自分のスマートフォンを使いながら苦労されている中で、特にスリランカやモンゴルの言葉が活用できないという話を聞いている。学校に来てもらわなくても、各家庭で対応ができるよう、クロームブックを活用できればと、話しているところで、もう少し先生方を支援できるような活用ができればいいなというふうに思っております。

橋爪委員

I C Tの支援の充実の継続についてなんですが、本市の活用が進んでいる大きな要因のひとつにI C T支援員の充実があると思います。

国の基準では4校に1人配置とのことですが、本市では3校に1人で体制を整えていただいているとお聞きしました。支援員のおかげで、パソコンの活用における先生方に対する支援だけでなく、授業中の子ども達のパソコンの操作支援や、担当する他の学校の事例の紹介などもしていただいていると聞きました。

ぜひ、この体制をこれからも維持していただきたいと思います。

近藤委員

先ほどの説明の中にもありました、若年層の教員がベテランと協力したり、それから若年層の教員がアイデアを出し合ったりということがありましたが、八街市の先生方は、講師の先生方も含めて若い人が多いような印象があるので、I C T教育については、やはり若い人先生方は、比較的得意な先生が多く、進んでどんどんやる傾向にあります。

その若い先生方の力を伸ばし、自信をつけるという、若い先生方がI C Tを使うことによって、自信を持って授業をしているというのをいろんな学校で見ている。

ます。これからも八街市のICT教育の進んでいるところは、若手を自信を持って伸ばすという強みにしていただいて大事にしていただければありがたいなと思います。

北村市長

他にございますか。

それでは他に無いようですので、今、それぞれ教育委員の皆さんから出ました、いろんなご意見につきましては、今後も検討課題とさせていただきます。

それでは、議題1については終了したいと思います。

次に議題2、その他について、私から教育委員の皆さんにお聞きしたいと思います。教育環境や社会が大きく変化する中で、本市の教員は、本当に一生懸命に指導に当たっていると感じております。先般も朝陽小学校の卒業式に出向きました。

その際、子どもたちが「先生大好き」と言って、担任の先生が号泣していました。先生方は、こんなに頑張っているのだということを感じたところであり、是非、教育委員の皆さんが普段現場を見て子どもたちの活動、先生方の取り組みについて、どのように感じているか、ご意見を拝聴したいのでよろしくお願い申し上げます。

山田教育長職務代理者

学校にいつも訪問していて、年を追うごとに感じるのは、先生方は子どもたち一人一人を大切に、将来、自分でしっかり生きていけるような子に育てたいという視点で、子どもを伸ばそうという気持ちが強いと思います。優しいところは優しく、そして厳しいところは厳しく、声を荒げるということではなく、先生方自身が持っている考えをしっかりと子どもたちに伝え、子どもたちの考えを聞くという、私の感覚からすると、教育の本質を考えた教育をされているなというのをとても強く感じます。若い先生方が育つのは、ベテランの先生方の姿を見て努力をしながら育っているのだと思います。学校を訪問して、いつも子どもたちがとても幸せだなというふうに感じます。それも、そのような体制を整えてくださっている市のおかげだと思っています。先生方が自信を持って子どもの教育に当たっているのを強く感じます。

吉田委員

昔、八街市の学校の先生を経験すれば、どこの市町村でもできるという話があったんですが、今は八街市で勉強して、それを他の市町村で活かせるというくらい八街市の教育が、進んでいるというのを感じますし、それはやはり、日頃の先生方の教材研究や、研修をとおして一生懸命勉強しているからというのを感じているところです。本当に若い人もそうですけど、やはりベテランの先生が頑張っているなというのをしみじみ感じているところです。

橋爪委員

学校でアンケートなども頻繁に行われておりまして、私の子どもも紙や、クロームブックを使って、その中で、勉強なども含め学校の中で自分が不安に思っていることなどを書いて、その後、面談など担任の先生もしくは校長先生や他の先生方でも、聞いていただける機会を、作っていただいています。先生方も多くの生徒がいる中で、学校生活を楽しいものに過ごせるように尽力してくださっているのを感じております。

近藤委員

八街市の先生方は昔から非常に一生懸命だと思います。というのは、子どもたちは、いろいろな環境があつて大変なところもあるんですけど、とても人懐っこくて、それは先生と子どもたちの距離が近いというのがありまして、本当に一生懸命やっている先生方がほとんどです。ベテランの先生も増えて、小中連携もあつて、まとまりがあり八街市で先生をやるという1つの意識が、今までずっとあつたと思います。先ほどお話がありましたけど、八街市で1人前なら他でも通用するということが、ずっと続いていると思いますので、これからも教育委員会からも助言をしていきたいと思います。

北村市長

大変古いフレーズになってしまいますが、恩師の影を踏んではいけないという、ずっと先生を尊敬しながら人生を歩んできた思いがあるので、今、教育委員のお話を聞いて、本当に先生方の頑張りを市民の皆さまにも共有してもらいたいと思っていますのでこれからもよろしくお願いします。

浅尾教育長

各委員からお話があつたように、八街市の教職員が、本当に子どもたちにしっかり寄り添って、毎日、丁寧な指導していただいている姿を目にしておりますし、先生方は非常に奥ゆかしいので、ご自分から頑張っているということは普段あまり口にはされませんが、私から見ても八街市の子どもたちは幸せだなと思うほど丁寧に子どもたちの指導にあたっただいただいています。

そして、実際に人事異動で八街市を離れた先生方が、新しい学校でさらに活躍されているという声もたくさん耳にしますが、それだけ、八街市は地域や保護者の皆さんも一緒になって、先生方を助けてくださっていると感じているところです。

是非、印旛郡市に限らず、県内の先生方が八街市の学校で教えたいといってもらえるような取り組みをさらに充実させていきたいと思っております。

北村市長

それではただいま教育委員さんはじめ、いろんなご意見をいただきました。今後も事務を進めていく中で、改めて市長部局と教育委員会一体となつて、さまざまな課題を、関係機関や関係各課等で協議してまいりたいと思います。

本日は大変円滑そして有意義な会議運営に協力いただきまして、本当にありがとうございます。

以上で、進行を事務局へお返しします。

教育総務課長

ありがとうございました。

それでは以上をもちまして令和5年度第2回八街市総合教育会議を閉会といたします。